

人工言語学研究会著 2012年4月4日初版

# ke と aller の 対照言語学

アルカのネイティブによる用例と彼女の誤用分析

本稿はアルカのネイティブである luxia arbazard の移動動詞に関わる幻仏発話における用例と彼女の誤用分析である。luxia arbazard は le 8 mars 2007 (2007年3月8日:校正者注) に生まれた女兒である。彼女は3才ごろからフランス国外でフランス語を教えられはじめた。3才より前にフランス語は耳にしているが教えられてはいない。2012年現在ではフランスでフランス語も使用する。

本稿は主に ke と aller (行く) に関してそれらの用例と誤用に関して報告する。

なお、筆者はアルカもフランス語も母語ではない。

#### ・ ke の用法

- 1: 動詞。sol (人) は yul (目的地) に行く
- 2: 副詞。～しに行く
- 3: 動詞。sol (道) が yul (目的地) に通じている

#### ・ aller の主な用法

- 1: 動詞。行く。Je vais à l'école. (学校に行く)
- 2: 成句。Tout va bien. (順風満帆だ) これはアルカにはない用法である。直訳すると「全てが良く行く」
- 3: 成句。Comment allez-vous? (ご機嫌いかが?) これはアルカにはない用法である。直訳すると「あなたはどのように行く?」であり、soonoyun に多少近い印象を持つ
- 4: 動詞。～しに行く。補助動詞のように使う。Je vais voir ma fille. (娘に会いに行く)
- 5: 動詞。近接未来。L'avion va partir. (飛行機がもう出発する)
- 6: 成句。Allez. ketta と同じ意味。「さあ」。ketta の原義が「行く」であることから、アルカと同じ語感を持つ
- 7: 成句。Allons. 同上。

aller は学校などの場合は à l'école のように à を取るが、aller chez mon ami などの場合は chez を取る。対象によって使用する前置詞が食い違う。アルカにはそのようなことはなく統一的である。

目的地が店などの場合は **chez** を使うと外国人は教えられるが、実際のフランス人は **chez** の代わりに **à** を使うことも多いので注意すべきである。

• luxia の ke の用例と彼女の誤用分析

女兒は ke の代わりに kor を使うので以下にある kor は ke を意味する。なお、副詞の際は ke は ke のままで kor にならない。

1: non kor fan benben. トイレに行くの。

luxia は赤ん坊のころ ke が女性で kor になることを速やかに理解した。なぜなら彼女の周りには女性が多かったからである。

2: non in ke fan yuutxan e. ゆーちゃんを見にいくの。

in fan ke と語順を誤ることが何度かあった。4 才ごろには自然とその誤りは消えていた。

3: \*Maman, je vais parc! ママ、わたし公園行く！

アルカの格組の影響による誤用。前置詞と冠詞が脱落している。Je vais au parc が正しい。

4: \*kor, fit a non! ほら、ちょうだいよ。

フランス語の **Allez!** に感化されて **ketta** のつもりが **kor** となってしまった誤用。4 才ごろによく聞かれた。本来女性は **ketta** を使わず **leev** を使うが、祖父や兄の影響で **ketta** も知っていたため **ketta** のつもりで **kor (=ke)** を使ったものと思われる。すぐに本人の中で正しく修正された。

5: \*kor, xen xiit! さあ食べようよ。

これも **kor** を **leev** とすべき誤用。恐らく **Allons** や **mangeons** が影響を与えているのではないか。4 才ごろに見られた。kor としているので副詞でなく動詞として認識している模様。すぐに本人の中で正しく修正された。

6: \*mama leev ke in tisse, maal. お母さん、ママがもう行っちゃいそうだよ。

maal は ridia (筆者) と等しい。mama は mel keetoia と等しい。ke を近接未来の副詞として使っている。フランス語の影響による。4 才ごろから見られ、5 才でも直らない。文法的にはアルカ上でも正しいため、筆者も誤用と気付きにくかった。上記の正確な訳は「お母さん、ママが去りにいきそうだよ」であり、これだと意味不明。正しくは mama leev sat in tisse, maal。

7: \*lop ke leev in e. 電車が行っちゃいそう。

完全にフランス語の *Le train va partir* から影響を受けた誤用。アルカの文法的にも非文。ke としているので副詞として使っているのだろうが、語順が正しくない。lop leev sat in e が正しい。

8: \*Ils vont avec train. Ils vont avec pied. 電車で行くみたい。歩いて行くみたい。

アルカの lain kor kokko lop. lain kor kokko zam. が基底にある誤用。Ils vont en train と Ils vont à pied が正しい。アルカでは zam なのにフランス語では jambe でなく pied としているので、半分は理解しているのかもしれない。

9: \*Le PC est mal. パソコンがおかしい。

Le PC va mal が正しい。tu sai es avix による誤用。

10: \*La jupe est daz a toi, maman. スカート似合ってるよ、ママ。

アルカとフランス語のコード混合。La jupe va bien が正しいが、基底にある tu lus et daz a tyu, mama. に引きずられている。「似合う」に当たる aller bien を知らなかったため、その部分だけ daz a を用い、しかも etre 動詞で繋げている。幼いころの mel keetoia (1988-) を彷彿とさせるコード混合である。

なお、コード混合は luxia の兄 yult にも起こる。

ridia: te xen du rak, yuutxan. 食べすぎちゃダメよ、ゆーちゃん。

yult: Ouais. so elf e. ふあーい。止めとくよ。

ridia: ren rens "Oui" ist "Ouais" mil tu et xille kal. 「ふあーい」じゃないでしょ、「はい」でしょ。ちよっとお行儀悪いわよ。

yult: Oui, maman. Je dis van "Oui" ist ceci. はい、ママ。僕、その代わりに「はい」って言うよ。

コード混合はフランス語にない法副詞 **van** を補うために起こったりしているように思える。

今のところ yult も luxia もアルカが優位な言語なので、基本的にアルカで何でも表現しようとする。フランス語で話していて語彙が足りないと時折アルカから単語を借りてくる。そうやってコード混合が起こっている。彼らのフランス語の語法はアルカのそれである場合が多く、フランス語の視点でいうと間違っているものが多い。逆にフランス語の語法がアルカに影響を与えて誤用を招く場合もある。

面白いことに、**Comment allez-vous?**に感化され、soonoyun が soonoke や soonokor になることはなかった。soonoyun はそれぞれのものをひとつのチャンクとして脳内に記憶しているのであろう。

今後彼らが成長していくとコード混合は直るのか、彼らはアルカとフランス語を個別に習得することができるのか、などといったことが懸念される。

*nən aesl b yplaseu i sepen ɔɔ le nin lci.*